

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第540号 平成25年5月10日

## 「She Said」

「親の背中を見て子は育つ」という諺があります。

母の日を前に、ふとその言葉を思い出しました。

私は終戦の翌年、3人兄弟の長男として生まれました。当時は、戦争の爪あとがいたるところに残っており、人々にとっては、戦争が終わってほっとする間もなく、明日をどう生きるかという厳しい日々であったと思います。日本全体が貧しかったせいもあり、我が家のつつましい生活は苦になりませんでした。それでも3人の子どもを育て上げる事は大変だったろうと、今になれば親の苦勞が偲ばれます。

父も母も外で働いていましたから、学校の保護者参観日等で母親が朝から家にいるのを見ると、子ども心にとても嬉しく感じた事を今でも良く覚えています。

両親は、少々不器用だけれども、誰にも恥じない生き方を精一杯していたように思います。私は、そんな両親の後姿を見て育ったのだと、つくづく感じています。

振り返ってみると、私は仕事人間だったこともあって両親には寂しい思いをさせて来た様に思っています。勿論親不孝な息子だったとは思っていませんが、さりとて孝行息子でもなかったなと内心忸怩たる思いでいます。

両親は、共に既に亡くなっていますが、今でも「彼らは私にどんな事を期待していたのだろうか？」という思いが頭をかすめます。そして、今更どうしようもない事ではありますが、「まあ、やるだけの事はやって来た」と考える事にしています。

私は今でも、両親の働いている姿が記憶に残っています。その真面目に一生懸命に働いている姿が、私に真っ直ぐな道を歩かせたといっても良いかも知れません。私は、額に汗して働く両親の姿を見ながら、「この二人を泣かせる真似だけは出来ない」と子ども心にいつも感じていたものです。

昨年暮のNHK紅白歌合戦で、ひときわ光彩を放ち、多くの人に感動を与えたのは美輪明宏さんの「ヨイトマケの唄」でした。

「父ちゃんのためならエンヤコラ」「母ちゃんのためならエンヤコラ」で始まるこの歌は、家が貧しく、「ヨイトマケ」として働いて母親の事でいじめられたりしますが、母親のがんばる姿を見て、その辛さに負けずに頑張り抜いて行くという、一人の息子の生きざまを描いたものです。

「子どもの頃に小学校で／ヨイトマケの子ども／きたない子供といじめぬかれ／  
はやされて／くやし涙にくれながら／泣いて帰った道すがら／母ちゃんの働くところ  
を見た」

「姉さんかむりで／泥にまみれて／日に灼けながら／汗を流して／男にまじって  
綱を引き／天に向かって声あげて／力の限りうたってた」

「慰めてもらおうと／抱いてもらおうと／息をはずませ帰ってはきたが／母ちゃ  
んの姿見たときに／泣いた涙も忘れはて／帰って行ったよ学校へ／勉強するよと言  
いながら」

私は、美輪さんの熱唱を耳にしながら、自分が生きて来た時代と重なり合って、  
思わず胸が熱くなりました。

真剣に生きている親の姿は、子どもの心に届かぬ筈はない。私は、そう信じてい  
ます。

ニューヨーク生まれのバンド「THE DEY」が歌う「She said」と  
いう歌もまた、母親への愛に溢れています。

Twelve hours on her feet	12時間立ちっぱなしで
And she worked like a slave	彼女は奴隷のように働いてた
She didn't make a lot of money	沢山稼いでなかったけど
But the bills got paid	生活費はまかっていた
Every day she dealt with pain	彼女は毎日痛みと戦っていたけど
And I've never seen her cry	彼女が泣いているのは見た事はない
And no matter how much it hurt	それに、どんなに痛くても
It was her only way to survive	ほかに生き延びる方法はなかったの
And I'll never forget	そして私は忘れない
What you've done for me	私のためにしてくれたこと
And I'll do my best	だから私はベストを尽くすわ
To make you proud of me	私を自慢に思ってもらえるように
She said:	彼女は言ったわ
Girl I just want you to have a better life than me	あなたには私よりましな人生を送って欲しいのよ
She said:	彼女は言ったわ
Get a good job	いい仕事を見つけなさい、家族を養えるように

<p>So you can raise a family</p> <p>She said:</p> <p>I'm not the kind of people you look up to</p> <p>I don't think you understand I wanna be just like you.</p>	<p>彼女は言ったわ</p> <p>私はあなたが憧れるような人間じゃないわ</p> <p>わからないでしょ。私はママみたいになりたい</p>
--	--

これは、歌詞（「ソニー・ミュージックエンタテインメント」の資料から）の一部です。ここに登場する母親もまた貧しい生活を「女の細腕」で支えています。彼女、つまり私の母親は「私のような人生を送って欲しくない。自分は子ども達が誇れるような様な存在ではない」と思っているのですが、一方子どもの方は、どんなに苦しくとも、泣き言一ついわず家族の為に働いている母親を見て、「私は貴女の様な存在でありたいのだ」という思いを吐露するのです。

母と子の心情は、民族を超え、世代を超えて通じ合うものがある様です。

（塾頭：吉田 洋一）